

露地ネギにおける土着天敵の発生実態

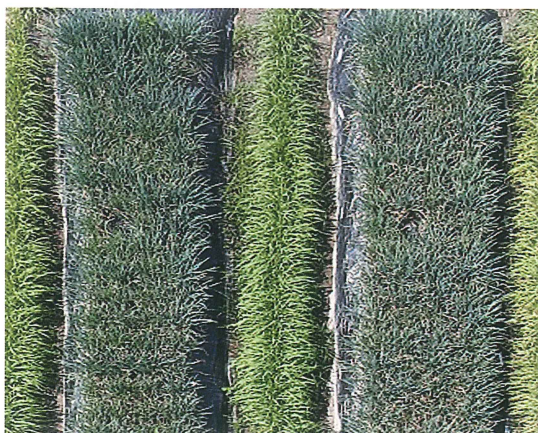


写真1 畝間にムギを植えたネギほ場（上空写真）



写真3 ヒメオオメカメムシ



写真2 キイカブリダニ

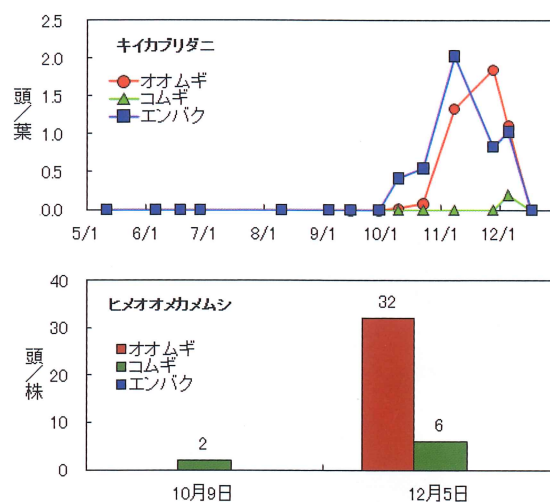


図1 畝間にムギを植えたほ場のネギにおける土着天敵の発生量

露地ネギでは、ネギアザミウマの食害による品質低下が問題で、主に殺虫剤による防除が行われています。しかし、殺虫剤抵抗性のネギアザミウマが顕在化しており、防除が困難となっています。そこで、殺虫剤のみに頼らない防除法の開発のため、ネギアザミウマに対して有望な土着天敵の発生実態を調査しました。

県内数カ所の露地ネギほ場を調査したところ、土着天敵としてカブリダニ類、ヒメハナカメムシ類、クモ類の発生を確認しました。さらに、ほ場の畝間にムギを栽植（写真1）したところ、キイカブリダニ（写真2）とヒメオオメカメムシ（写真3）が多く発生しました。特に、ヒメオ

オメカメムシはネギでの定着性が良く、防除に利用できる可能性は高いと考えられました。また、キイカブリダニとヒメオオメカメムシとも、畝間にオオムギを播種した場合に多く発生したため、オオムギは両種の温存植物として有望であることが示唆されました（図1）。

今後は、キイカブリダニとヒメオオメカメムシに対する殺虫剤の影響を明らかにし、温存植物のオオムギを利用した土着天敵によるネギアザミウマの防除技術の開発に取り組んでいきます。

（昆虫担当 中石一英 088-863-4915）